



導入企業の

デジパス

活用事例

— デジパスを成功に導く活用事例のご紹介 —



申込はがきのデータ化で16時間/日の作業負担を解消

Company



社名：株式会社ネオビエント
 Webサイト：https://neovient.co.jp
 事業内容：イベント事業、地域ブランド創造事業（産直市ほか）、施設管理運営事業（指定管理者ほか）、自治体等受託事業
 企業規模：100～300名
 お話をうかがった部署：イベント事業部

対象帳票

「プレミアム付き食事券」の購入申し込みはがき

頻度	作業時間	ボリューム	項目数
毎日	毎日 16時間以上※1	平均 約500枚/日※2	20項目

※1：入力1分/枚、チェック作業7.2秒/枚、確率3割で生じる修正作業3分/枚の合計
 ※2：日によって100～2,000枚の間で波あり

導入前

- ・はがき申込受け入れにより入力による入力・確認作業が発生
- ・業務量予測や体制強化が困難で、社員の負担が増大
- ・全社に拡大した業務負担を軽減できる方法が必要

導入後

- ・紙のデータ化に伴う作業負担の大半を解消
- ・期間限定の事務処理にマッチしたスポット利用のプラン
- ・チェック工程からも解放され、大幅な負担軽減を達成

導入前の課題

徳島県在住者が県内飲食店で利用できるプレミアム付き食事券の運営事務局を受託するにあたり、食事券の購入申込者の申請内容がそのままデータ処理できるオンラインのほか、インターネット環境がなくとも申込可能なはがき活用が決定。これにより、データの手入力作業と、その後の目視によるチェック作業が生じることとなった。

臨時スタッフを増員するなどの対応を取ったものの、初めて対応する内容かつ期間限定の業務だったことから、業務量の予測や余裕を持った人員配置は難しく、社員の早出や残業が増えたほか、ピーク時には担当外の社員のカも借りることとなり、本来の業務にも支障を来した。そのため、手入力とチェックの作業負担を、そろって軽減するための方法を探っていた。

デジパス導入後の効果

紙のデータ化に伴う作業負担の大半を解消

手書き含めた紙のデータ化をデジパスで1日平均約700件処理し、作業負担の大半を解消。自社での処理は、はがきの到着が集中した場合などに限定した。

期間限定の事務処理にマッチしたスポット利用のプラン

スキャン画像送付から最短2時間でデータを納品するデジパスは、月額料金に従量課金に加わるシステムで、期間限定の業務にスポットで投入したい同社のニーズにマッチ。利用プランの詳細をデジパスの運営担当と適宜調整しながら進めた食事券の申込処理は、納期前に無事完了した。

チェック工程からも解放され、大幅な負担軽減を達成

OCRソフトを導入して手入力を解消しても、チェック工程の負担が残ることから、同社は目視チェック済みのデータが入手できるデジパスを選択。1日あたり16時間もの作業から社内スタッフを解放し、大幅な負担軽減を達成した。



1日100枚の納品書をデータ化し、約2時間/日の余力を創出

Company

社名： 鴻池運輸株式会社
 Webサイト： <https://www.konoike.net/>
 事業内容： 物流サービスほか
 企業規模： 1001名以上(約23,000名)
 お話をうかがった部署： 定温物流支店
 大阪北港定温流通センター営業所

対象帳票 **納品書**

頻度	作業時間	ボリューム	項目数
毎日	毎日 2時間以上※1	平均 約100枚/日	21項目

※1：チェック作業1～2分/枚・確率1～2%で生じる修正作業5分/枚の合計

導入前
<ul style="list-style-type: none"> 荷物情報を記載した紙の納品書が年間300万枚発生 AI-OCRを導入しても「文字認識後のチェック作業」が残る 目の酷使や確認・照合ミスがスタッフの負荷に
導入後
<ul style="list-style-type: none"> 1日100枚の紙帳票をデータ化 社内確認が異常箇所の通知が来た場合のみに限定 自発的に作業内容を見直すなど業務改善の動きが活発化

導入前の課題

鴻池運輸株式会社の大阪北港定温流通センター営業所では、今後見込まれる人手不足に対応するべく紙から電子帳票への移行を進めると同時に、一定数残る紙帳票をデジタルデータ化するためRPAとAI-OCRの併用を検討。しかしながらAI-OCRによる文字認識後に発生するチェック・修正作業は社内スタッフが人力で行う必要があることから、効率化の効果が限定的だと感じていた。

また手書き修正が多々生じる紙の納品書と社内システムのデータ照合には正確性が求められるため、チェック・修正によって生じる目の酷使、ミス発生時のメンタル面の負担など、**スタッフの心身の疲労が、業務改善をはじめとする創造的な仕事への余力を消失させている**ことも懸案となっていた。

デジパス導入後の効果

荷物情報を記載した紙の納品書が年間300万枚発生

デジパスで100枚/日の紙帳票をデータ化することで、社内作業はスキャンにかかる時間のみに抑制した。

AI-OCRを導入しても「文字認識後のチェック作業」が残る

スキャン後の文字認識から確認・修正までをデジパス側で行うため、社内での確認は異常箇所の通知が来た場合のみに限定され、時間と労力の削減を達成した。

目の酷使や確認・照合ミスがスタッフの負荷に

社内工数の削減に伴い、従来発生していた心身の負荷を解消するとともに、1日あたり約2時間の余力を創出。業務改善のメリットを体感した現場では、自発的に作業内容を見直すなど業務改善の動きが活発化し、各スタッフが仕事の幅を広げている。



アンケートはがき対応を一任し、月40時間の工数削減

Company



社名：株式会社ビックカメラ
 Webサイト：<https://www.biccamera.com>
 事業内容：家電製品等の販売
 企業規模：1001名以上
 お話をうかがった部署：ロジスティクスサービス部

対象帳票

アンケートはがき

頻度	作業時間	項目数
毎日	毎日 2時間	66項目

導入前
<ul style="list-style-type: none"> デザイン変更のたびに発生する、帳票別テンプレート作成の手間 スキャン前にはがきを帳票別に仕分けの必要がある 毎日はがきのデータを目検・修正するスタッフの負荷
導入後
<ul style="list-style-type: none"> 複数パターンの帳票テンプレート作成が可能で、都度作成が不要に 帳票パターンの自動振り分け機能で、仕分け作業を解消 チェック工程が不要となり、従来の担当者を別業務へ割り振り

導入前の課題

株式会社ビックカメラのロジスティクスサービス部では、配送サービスに関する「お客様の声」の分析・品質改善を行うため、他社AI-OCRを利用してアンケートはがきを毎日データ化、集計していた。しかしながら、はがきデザインを改定するたびに発生する帳票別テンプレートの新規作成、スキャン前に目視・手作業で行う帳票パターン別のはがき仕分け、認識精度が低いために発生するスキャン後の全データの目検・修正といった作業に人員・工数を割かなければならず、この状況の解決策を模索していた。

デジパス導入後の効果

- 複数パターンの帳票テンプレート作成が可能で、都度作成が不要に**
 デジパスの利用開始時に複数の帳票テンプレートを事前作成したことで、作業開始後に追加作成・確認を行う工数が発生しなかった。
- 帳票パターンの自動振り分け機能で、仕分け作業を解消**
 デジパス側で帳票パターンを自動振り分けするため、スキャン前に社内で仕分け作業を行う必要がなくなった。
- チェック工程が不要となり、従来の担当者を別業務へ割り振り**
 AI-OCRでスキャン後の確認・修正までデジパスが対応し、納品データの精度が高かったため社内チェックが不要となった。仕分け作業分とあわせて月40時間相当の削減効果を生むとともに、担当者は別業務に対応することができるため、部内の業務効率化を達成している。
 スポット利用が可能な利便性に加えて、納品までの対応の速さなど、コスト以上のメリットを感じる点が多い。



1回あたり700枚の請求書処理にかかる工数を省力化、同時に業務の標準化も達成



社名：株式会社リガード
 Webサイト：<https://tokyo-chumon.com/>
 事業内容：建築請負（注文・分譲）、建築設計、施工管理ほか
 企業規模：51～100名
 お話をうかがった部署：DX推進部、総務部

対象帳票 請求書

頻度	作業時間	ボリューム	項目数
月2回	8時間/回	約700枚/回	30～60項目 <small>※帳票により異なる</small>

導入前	<ul style="list-style-type: none"> 請求処理が煩雑で多くの工数を要する 上記作業に経験値やノウハウが必要で属人化している 作業ボリュームが月内で偏るため、その期間は総務部の業務負荷が急増 処理後の基幹システム入力の際に、ヒューマンエラー（入力ミス）が発生
導入後	<ul style="list-style-type: none"> 4.5万円/月の省人効果＜BizRobo!(RPA)の併用で25時間/月の余力創出＞ 経験が浅いメンバーでも処理が可能になり、脱属人を実現 入力ミスの低減

導入前の課題

株式会社リガードの総務部では、毎月半ばと月末に発生する請求処理について、取引先から届いた紙の請求書を基幹システムに登録する過程でデータ化・振り分け・入力ミスのチェックおよび修正などの膨大な工数がかかり、またその対応に多くの知識が必要なため、ベテランスタッフのみが対応するという業務の属人化が課題となっていた。

そこでこの課題を解決するため、DX推進部が中心となって業務のデジタル化による効率化・標準化を達成する方法を模索していた。

デジパス導入後の効果

4.5万円/月の省人効果 <BizRobo!(RPA)の併用で25時間/月の余力創出>

700社近い取引先から月に複数回請求書が届くなど、処理対象が膨大に発生していたが、スキャン後はデジパス側で紙のデータ化から指定様式での納品まで対応するため、社内での対応人数・工数を削減。総務部の業務を圧迫する状況を解消した。

経験が浅いスタッフでも処理が可能になり、脱属人を実現

取引のカテゴリごとに処理方法が異なるなど、経験の浅いスタッフでは対応が難しい点もあったが、デジパス側での帳票パターンの振り分けやRPA活用によりDX・自動化を推進したことで、社内スタッフが誰でも同じくオリティで業務を遂行することが可能となった。

入力ミスの低減

請求書をAI-OCRでデータ化した後に、デジパス側のスタッフがチェック、修正を行ったうえで納品されるため、入力ミスの発生頻度が大幅に減り、社内での確認作業の負担を軽減。作業時間の短縮のみならず、スタッフを精神的負担から解放した。

これらの効果から、今後は処理対象となる帳票数を増やし、バックオフィス業務における単純作業の負担軽減、省人化の効果を拡大することを目指している。



毎月10時間かかっていた帳票のデータ化が、1/10まで削減

Company



BIZLINK ADVISORY

社名： ビズリンク・アドバイザー株式会社
 Webサイト： <https://www.biz-link.co.jp>
 事業内容： 事業再生に関するアドバイザー、M&Aに関するアドバイザー、株式公開に関するアドバイザー、その他、経営・財務上のアドバイザー
 企業規模： 50名以下
 お話をうかがった部署： 広島本社

対象帳票

貸借対照表、損益計算書など6帳票

頻度	作業時間	ボリューム	項目数
月2回	5時間/回	1~10枚/回	600項目

導入前

- 紙帳票をExcelデータ化する業務でまとまった工数が発生
- 紙帳票をPDF化してもそのままExcel化できない
- 人の手作業による入力ミスが多発

導入後

- 入力作業が不要となり社内工数を1/10まで削減
- ポータルサイトにスキャンデータをアップするとcsv形式で納品
- デジパス側で確認まで行うためデータ上のミスが減少

導入前の課題

企業財務に関するアドバイザーを行う中で、顧客から提供された紙書類やPDF形式の財務資料を分析・レポート化するにあたり、記載情報をExcel化する必要があった。しかしながら従来使用していたPDFソフトでは、スキャン後にそのままExcel化することができず、スタッフが手入力でExcelデータに落とし込んでいたため、まとまった工数を要していた。また手作業時に発生する数値や文言の入力ミスにより、追加工数が度々発生していた。

また扱う資料が企業経営に関わる機密情報のため、作業をアウトソースすることにも慎重になっていた。そこで上記の解決策として、デジパスの①高品質にデータ化できること、②操作がシンプルであること、③全ての作業が日本国内で完結し、かつセキュリティ体制が万全であることを評価し課題解決に着手した。

デジパス導入後の効果

紙帳票をExcelデータ化する業務でまとまった工数が発生

社内での作業は紙帳票のスキャンのみとなり、合計6帳票でひと月あたり10時間を要していたデータ化作業が、1/10の時間で完結することとなった。

紙帳票をPDF化してもそのままExcel化できない

スキャン後、デジパス側からcsv形式で納品されるため、すぐにExcelでのレポート作成に着手できる環境が整った。

人の手作業による入力ミスが多発

デジパス側でAI-OCRを用いたデータ化に加えて、オペレーターの確認作業も行うため正確な情報が記載された納品データが届く。今後はデジパス活用による業務効率化に加え、納品データを自動的にレポート化するシステムを構築することで対応顧客数を増やし、これまで以上に地域経済の発展に貢献することを目指している。



3,500枚の手書き書類対応が、従来の1/3の時間、1/5の人員で可能に！

Company

柏市
KASHIWA CITY

社名： 千葉県柏市
 Webサイト： <https://www.city.kashiwa.lg.jp>
 事業内容： 地方公共団体
 企業規模： 1001名以上
 お話をうかがった部署： 福祉部 障害福祉課

対象帳票

自動車燃料費助成利用券兼助成申請書

頻度	作業時間	ボリューム	項目数
毎日	30時間/回	100枚/回	52項目

導入前

- ・請求書等の計算に時間と労力を要し、職員の残業時間が増大
- ・人為的なミスが発生し、その問合せ対応に追われる
- ・紙媒体の管理に多くの時間と人員を取られる

導入後

- ・ダブルチェック等の作業工程を削減
- ・作業時間を約1,272時間→約405時間へ短縮し、従事者を14人から3人へ削減
- ・市民からの問合せ数が減少

導入前の課題

43万人を超える市民の生活を支えている千葉県柏市役所。DX推進ガイドラインにもとづき、電子申請促進やペーパーレス化を進めているものの、福祉部 障害福祉課では、現在でも紙媒体による各種申請受付が大半を占めるため、その処理や過去書類の管理等に多くの時間・人員を取られる状態が続いていた。特に1回あたり約3,500枚（両面）発生する請求書の処理では、支払期日が決まっている中で数値の手計算、ダブルチェック、並べ替えなどに対応していたが、その際にミスが発生してしまい、市民からの問合せも多く、職員の負担となっていた。そこでこの状況の解決策として、手書き請求書の識字率向上や、期日内のスピーディな対応を実現するための方法、ツールを探していた。

デジパス導入後の効果

ダブルチェック等の作業工程を削減

デジパスの導入により紙書類スキャンや、並べ替え以外の作業工程が削減されたため、職員がルーチンワークから解放され、市民対応など人でなければ対応できない仕事に注力することが可能になった。

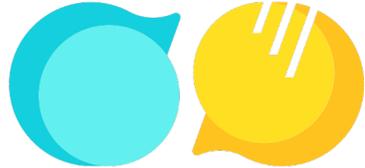
作業時間を約1,272時間→約405時間へ短縮し、従事者を14人→3人へ削減

高精度のAI-OCRを用いた書類のデータ化、後続処理に適したデータ形式での納品、さらにこれらの作業を短時間で対応するようになったことにより、それまで課内で1月あたり約1,200時間、14人がかりで対応していた作業が、1/3の時間、1/5の職員で対応できるようになった。

市民からの問合せ数が減少

デジパス側のオペレーターが、読み取り後のデータ内容に誤りがないか確認してから納品するため、庁内処理時のミスが減少し、それにともない市民からの問い合わせが大幅に減少した。今後は電子申請の推進、BPRやBPMによる業務効率化に加え、紙の申請に対しては引き続きデジパスを活用し、市民サービスの向上と職員負担軽減の両立を実現したい。

書類のデータ化をまるごと任せられるサービス

The Digipath logo consists of two overlapping speech bubbles: a light blue one on the left and a yellow one on the right with three white diagonal lines inside. To the right of the bubbles is the word 'デジパス' in a large, bold, dark blue sans-serif font.

デジパス



デジパス公式サイト



<https://rpa-technologies.com/lp/digipath>



ご相談、お申し込みはこちらまで



<https://rpa-technologies.com/inquiry/contact/>